

市民医療センターに救急診療所の開設運営は

「基本的には高齢者の対応」



志政クラブ 石井民雄 議員

議員 本市の救急医療体制の充実、市民の安心感の向上の意図から、非常に重要。そこで、どの程度の対応と体制を構築されるのか伺う。

市長 基本的には、高齢者の内科疾病患者の受け入れを予定。対応として、救急患者受け入れは、24時間通年、平日の昼間は常勤医師及び常勤看護師で、休日と夜間は非常



▲市民医療センターに救急診療所を開設

勤医師と常勤看護師で、常勤医師と連携して対応する。スタッフの勤務体制は、現状を変えずに実施予定。



震災を踏まえ、本市の災害への準備・対応は

「東京湾北部地震を想定し行う」



平成会 秋元良夫 議員



▲ごごというときのために
(美女木小学校での防災訓練)

議員 ①地域防災計画改訂の方向性、首都直下型地震の反映は②情報提供と、バックアップ体制の構築を。

市長 ①発災時の初動、時間経過ごとの対応を明確化、現計画の不足部分を補う。本市に最も影響が大きい東京湾北部地震を想定し、改訂する②市民の情報取得の

実態に合わせ情報提供を進める。バックアップ体制の構築は、他の自治体や民間の公共専用ミラーサイト活用など、幅広い検討を進める。

議員 条例制定の成否の鍵は、市民の積極的な参加による制定プロセスの活性化にある。制定の仕組みづくり

は。

市長 ①市職員の意識改革と庁内推進体制の設置②市民講座等の、市民が学ぶ機会を設定③市民と団体等、市職員による協働ワークショップの実施④市民会議による条例素案の作成等、市民の共感を得ながら制定を進める。

議員 給食等の検査体制の準備状況は、いかがか。測定機器の増設が必要。早急に調達を。

市長 新規2台の機器で、新基準値による測定を開始。増設は8台を調達。1台は高精度の機器とし、10台を給食センターと単独調理場に配置、迅速な検査体制を構築する。

低年齢児に重点化した保育園開設を

「0～2歳が85%。課題と認識」



公明党 神谷雄三 議員

議員 市では毎年、保育園を開園しているが、ニーズに合っていないのか、低年齢児に待機が出てくる。低年齢児に重点化した保育園を開設してはどうか。

市長 待機児のうち0歳から2歳が85%を占めており、課題であると認識している。今後は認可保育園の増設を基本とし、低年齢児の枠拡大に努め

議員 特別養護老人ホームは多くの待機者がいるが、重複申し込みがある。名寄せをして実数をつかみ、施設整備の参考にすべきだ。

市長 本年度、県が調査した。戸田市民は205人で、うち介護

度4、5は101人という実態がわかった。

議員 シティセールズに政策研究所が取り組んでいるが、足元にいいものがある。長年活動している戸田交響楽団を生かすため、研究してはどうか。

市長 戸田交響楽団は都市イメージの向



▶戸田交響楽団の定期演奏会

上というシティセールの目標にも合致している。団の意見も聞きながら検討していきたい。

議員 「減災」で基金設置を

市長 既に基金との役割分担を含め、研究していく。

総括質問

総括質問とは、新年度の施政方針または市長就任時に行われる所信表明に対する質問で、2人以上で構成する会派による代表制質問のことで、

今定例会では、3月2日の本会議において、4人の議員が会派を代表して総括質問を行い、市長の施政方針に対して考えをいただきました。

なお、施政方針の内容は、4月1日号の「広報戸田市」に掲載されていますので、あわせてご覧ください。



▲4月1日に開園した「太陽の子 下戸田保育園」

債務圧縮への基金の活用について

議員 債務残高の圧縮は精力的に取り組むべき事項であると考えているが、いかがか。そこで、現在の基金残高は、どれくらいあるのか。また、債務残高の圧縮のため、基金を活用することについて伺う。

市長 昨年末現在の本市の特別会計を含む15

基金の残高は約123億円。また、市債務残高の合計は約466億円である。起債に過度に依存せず、適正な範囲での起債と、計画的な基金の活用を努め、市債務残高と基金残高のバランスを保ちながら、健全な財政運営を継続してまいりたいと考えている。

※名寄せ・・・同一人の複数施設への申し込みについて、名前を一つにまとめること。